

令和5年度全国学力・学習状況調査結果

【お問い合わせ先】日高町教育委員会 管理課 電話 01456-2-3721

【調査対象】 小学校6年生（80名）
中学校3年生（90名）

【調査実施日】 令和5年4月18日

【調査内容】

- 教科に関する調査（国語、算数、数学、英語）
- 生活習慣や学習環境等に関する調査

◇小学校・中学校ともに厳しい結果となりました

小学校は、国語、算数ともに全国平均を下回り、-5ポイント以上の差となりました。
中学校も今年度は全教科（国語、数学、英語）において下回り、差も大きくなりました。

校種	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
全国平均 (%)	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6
日高町平均 (%)	62.0	56.0	60.0	44.0	35.0
全国との差	-5.2	-6.5	-9.8	-7.0	-10.6

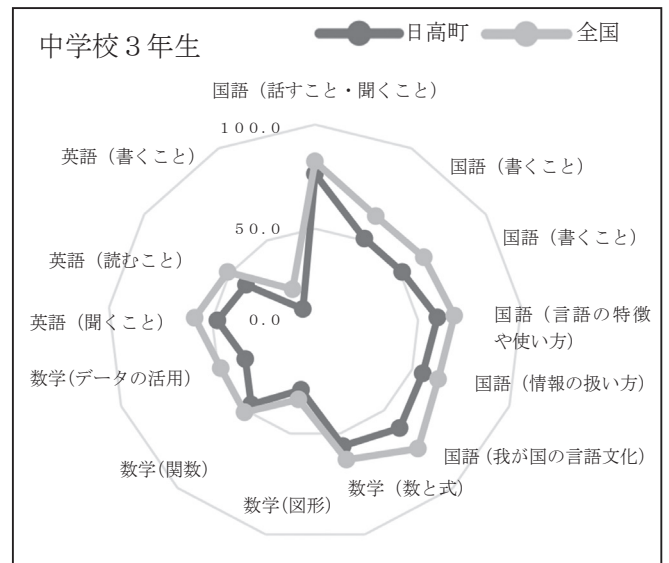
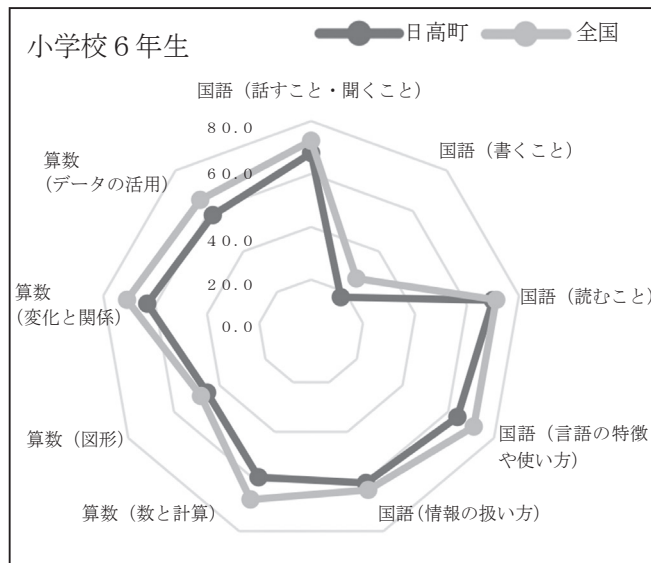
【小学校】 ～全国平均との比較～

〈国語〉

- 「知識・技能」では、「情報の扱い方」が全国平均に近く、-3ポイント以内の差であった。
- 「思考・判断・表現」では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」が-5ポイント以内の差であった。
- 「思考・判断・表現」の「書くこと」は、全国平均との差が特に大きかった。（差：-9.2ポイント）

〈算数〉

- 「図形」領域は全国平均に近く、-3ポイント以内の差であった。
- 他の3領域（「数と計算」「変化と関係」「データの活用」）は-5ポイント以上の差があり、「数と計算」の差が特に大きかった。



【中学校】 ～全国平均との比較～

〈国語〉

- 「知識・技能」では、「我が国の言語文化」の差が特に大きかった。（差：-13.2ポイント）
- 「思考・判断・表現」では、「書くこと」「読むこと」の差が特に大きかった。（「書くこと」の差：-12.1ポイント、「読むこと」の差：-12.6ポイント）

〈数学〉

- 「図形」と「関数」領域は、-5ポイント以内の差であった。
- 他の2領域（「数と式」「データの活用」）は-5ポイント以上の差があり、「データ活用」の差が特に大きかった。（差：-12.6ポイント）

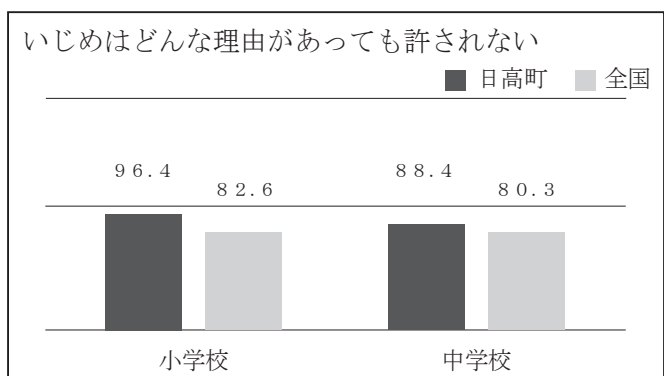
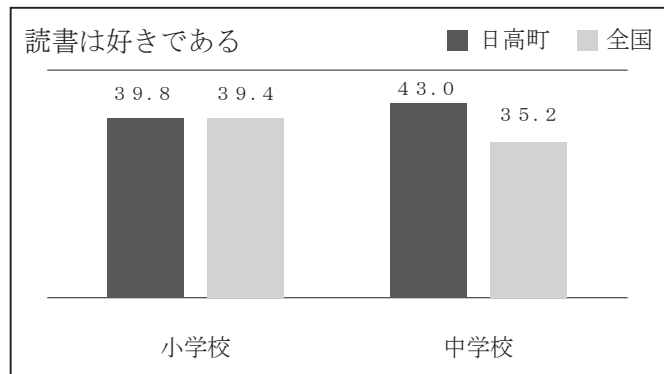
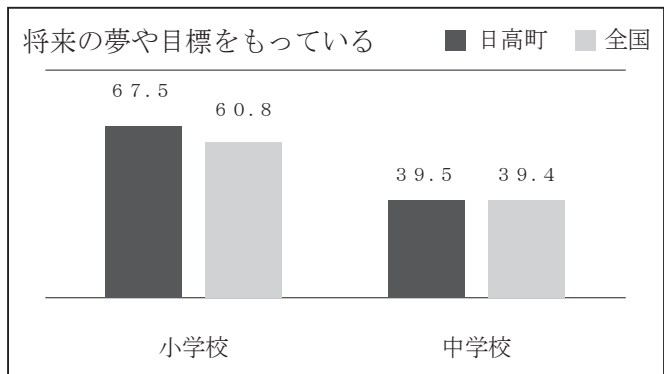
〈英語〉

- 「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の3領域とも全国平均との差が大きく、-10ポイント以上の差があった。

「生活に関すること」では ～【児童生徒質問紙調査の結果】より～

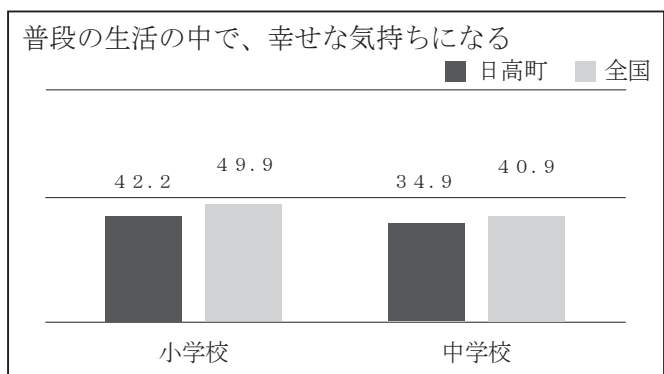
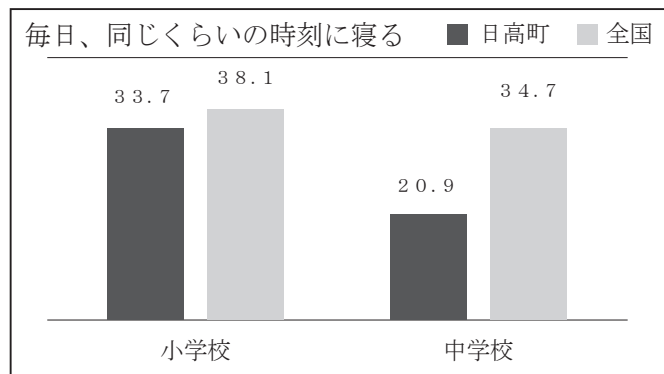
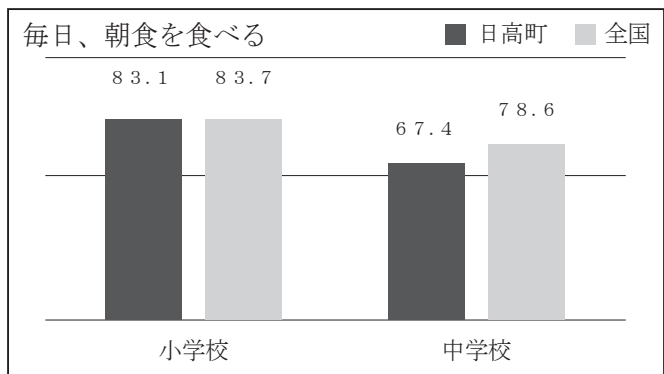
児童生徒質問紙調査では、小学生も中学生も全国を上回った項目があります。逆に小・中学生ともに全国を下回っているものもありますので、子ども達の健全育成に向けた家庭の協力が必要です。

◆ 小・中学生ともに全国を上回った項目 ◆



「あてはまる」と回答した小・中学生は、3つの項目とも令和4年度より増加し、全国平均を上回りました。しかし、夢や目標はもっているものの、自分にはよいところがあるという自己肯定感の割合は決して高くはありません。また、読書の項目では、今年度から電子書籍も該当となりましたので、紙媒体以外の読書も少なからず含まれているものと思われます。いじめに対しては、この考え方に行動が伴う道徳的実践力をこれからも育てていくことが大切です。

◆ 小・中学生ともに全国を下回った項目 ◆



令和4年度は全国平均を上回っていた朝食摂取と就寝時刻ですが、今年度は全国平均を下回りました。毎日、同じ時刻に起きるといった項目も下回ったことから、家庭における生活リズムの改善が必要です。今年度、新たに設けられた生活に対する満足度を問う項目では、日常的にストレスや満たされない気持ちを抱えている小・中学生が多いようです。充実感等を感じさせる心情的な触れ合いや体験が求められます。